



下鴨地域にある京都府の施設（京都府立大学・京都府立植物園・京都学歴彩館・京都土木事務所等）に働く職員で構成しています

京都府職員労働組合連合です

TEL 451-7868 [E-mail] kitayamaeria@k-fusyoku.jp

北山エリアの今後のあり方が検討・議論されています

北山エリア整備基本計画(骨子案)や1万人規模アリーナ構想等にご意見をおよせください



「アリーナ構想まとめた報告書」などの検索で「北山エリア」などご覧いただけます

KPMG
北山エリアにおける
アリーナの要素を持った体育施設の
整備可能性調査業務
最終報告資料(概要版)

1万人規模アリーナ構想

私たち(府職労連)は考えます

【求めていること・期待していること】

- 北山エリアの整備が、豊かな自然を守り、文化を育み、住民の方々や文化芸術関係者の参加でよりよいものになること。
- 老朽化が著しい府大校舎の建替え・改修等を急ぎ、安心でき、地域の方々も親しめる府立大学のキャンパス整備も併せて行うこと。
- 旧府立総合資料館跡地に整備予定の文化施設について、文化芸術関係者の期待に応え、府民も気軽に文化に触れることができる施設にしてほしい。
- 気軽に楽しめる府立植物園に。貴重な植物が保存育成され、日本を代表する府民の宝として世界に誇れる施設にしてほしい。

→ 耐震基準を満たしていないため、現在は授業で使用できなくなっている府立大の体育館



教職員や学生に丁寧な説明などがないまま計画が進んでいます。府は詳細な説明を行うべきです。高額・多機能のアリーナ構想よりも、安全・安心のために大学の教育施設としての体育館や老朽化した学舎を早急に建て替えてほしいとの思いがあります。
長谷川豊：京都府公立大学法人労組執行委員長（府立大学准教授）



京都府は9月府議会に「北山エリア整備基本計画」(骨子案)を示しています。

この計画は、私たちの働く環境や施設のあり方にも係わるものであると同時に、北山エリア周辺にお住まいや事業を営まれている皆さん、府立大学学生・教職員、植物園や京都学・歴彩館等の利用者にとっても、生活や自然環境、文化やスポーツにもかかわって重要な計画です。

この地域の整備にあたる経過、計画の概要等とともに、私たちが求めていること、一方で、危惧していることについて紹介させていただきます。

つきましては、関係者や近隣住民の皆様には、標記の件について、ご意見を寄せていただければ幸いです。

京都府職労連宛

[E-mail] kitayamaeria@k-fusyoku.jp

*右記のバーコードからも送信できます

[FAX] 432-2006



北山エリア整備計画(骨子案)に至る経過

- 2009年(平成21年)、「北山文化環境ゾーン整備推進についての検討報告」に基づき、新しいコンセプトのもとで構想
- その後、3大学連携による教養教育共同化施設、ポタニカルウインドウなど植物園の魅力伝えるふれあい空間の設置、京都学・歴彩館の整備、プロムナード整備が行われる
- 2019年策定の京都府総合計画に「北山『文化と憩い』の交流構想盛り込まれる。
- 交流構想の中にある「アリーナ機能を備えた体育館」の整備にあたって、2019年度予算1000万円で東京に本社を置くコンサルタント会社KPMGに可能性調査を委託 2020年3月に府に報告(アリーナについて5千人~1万人、100~155億円規模のシミュレーションに)
- 2020年度予算で2000万円を計上し、KPMGの関連会社に計画策定を委託。
- 2020年9月府議会で骨子案が公表され、パブリックコメントが行われる(9/29~10/19)
- 2020年12月議会で整備基本計画が提案予定
* 北山エリア整備計画(素案)の概要は裏面を参照

- 京都学・歴彩館を、京都の歴史や文化が豊かな資料を通じて学び、楽しめる施設にしてほしい。

【懸念していること】

- 1万人、155億円のアリーナ構想がシミュレーションとして報告されていますが、コロナ禍のもと経費的にも、規模的にも大学の体育館としては規模も大きく、地域の生活環境、自然環境にも無関係ではありません。
- 新しい施設ができた時の運営について、民間委託等で儲けが優先される商業ベースでの運営にならないか懸念しています。

北山エリア 整備基本計画(骨子案) の概略

京都府HPより
ご覧いただけます

北山エリア及び周辺地域のポテンシャルと課題

北山エリアのポテンシャル

- 市街地中心部から近く、交通アクセスが便利な場所でありながら、豊かな自然環境に恵まれた一定規模の土地であり、立地施設との相乗効果を発揮した事業展開が期待できるなど、民間活力導入についてポテンシャルがある地域

北山エリアの課題

- 各施設が囲まれた閉鎖的な空間で、府民にとって往来しにくい空間
- エリア内を周遊、滞在するための賑わい・交流機能が乏しい。
- 各施設のハード・ソフト両面での連携が不足
- エリア内の多くの施設が老朽化しており、大規模改修や更新が必要

将来像を実現するための方策

(2)各施設の整備の方向性

- ◆旧総合資料館跡地等 (編集者により 略)
- ◆府立大学
 - 社会環境の変化や、将来の学部再編等に対応できるフレキシブルな構造を基本とし、WITHコロナ・POSTコロナ社会における新しい教育システムを構築するため、リモート講義に適應した施設配置やスマートキャンパスとしての整備を検討
 - 下鴨農場については、新産業創出を核とする関西文化学術研究都市の新たな中核拠点としての精華キャンパスの再編・整備等と整合。
 - 用途に応じた、教育・研究ゾーン、地域連携ゾーン、スポーツゾーンのゾーニングを設定する。
 - ・ 教育・研究ゾーンには、ラーニングcommons、キャリアサポートセンター等の学生支援施設、情報メディアセンターなどの各種センター機能の集約を検討
 - ・ 地域連携ゾーンには、リエゾンオフィス、ミュージアム、地域未来創造センター、オープンラボ等、地域との交流が図れる施設を整備
 - ・ スポーツゾーンでは、老朽化した体育館を府立大学・医科大学の共同体育館として整備し、京都工芸繊維大学との3大学連携に供するとともに、アリーナ機能を備え、利用・運営の工夫により学生スポーツの公式試合や国際大会、文化イベント等、多用途での活用を検討。グラウンドは、学生スポーツの拠点として、サッカー場や野球場等としての利用についても検討
 - ・ 書店、コンビニ、レストラン等民間の創意工夫を活用した施設の併設を検討

京都府は、西は賀茂川、北は北山通、東は下鴨中通、南は府立大学の南側境界に囲まれている範囲を北山エリアと位置付け、令和元年10月に策定した京都府総合計画において「北山『文化と憩い』の交流構想」(概略は下図)を定めています。これにそって、旧府立総合資料館跡地や府立植物園、老朽化した府立大学体育館の整備などを計画的に進めるとしています。

旧総合資料館跡地を活用したシアターコンプレックスのほか、府立医科大学、府立大学、京都工芸繊維大学の共用体育館機能を有したアリーナの整備検討、府立植物園100周年未来構想(ビジターセンター、ショップ、カフェ等を備えた複合的な正門エントランスの整備、ゾーン内に立地する各施設との垣根のない連携)などに取り組むことが中心です。

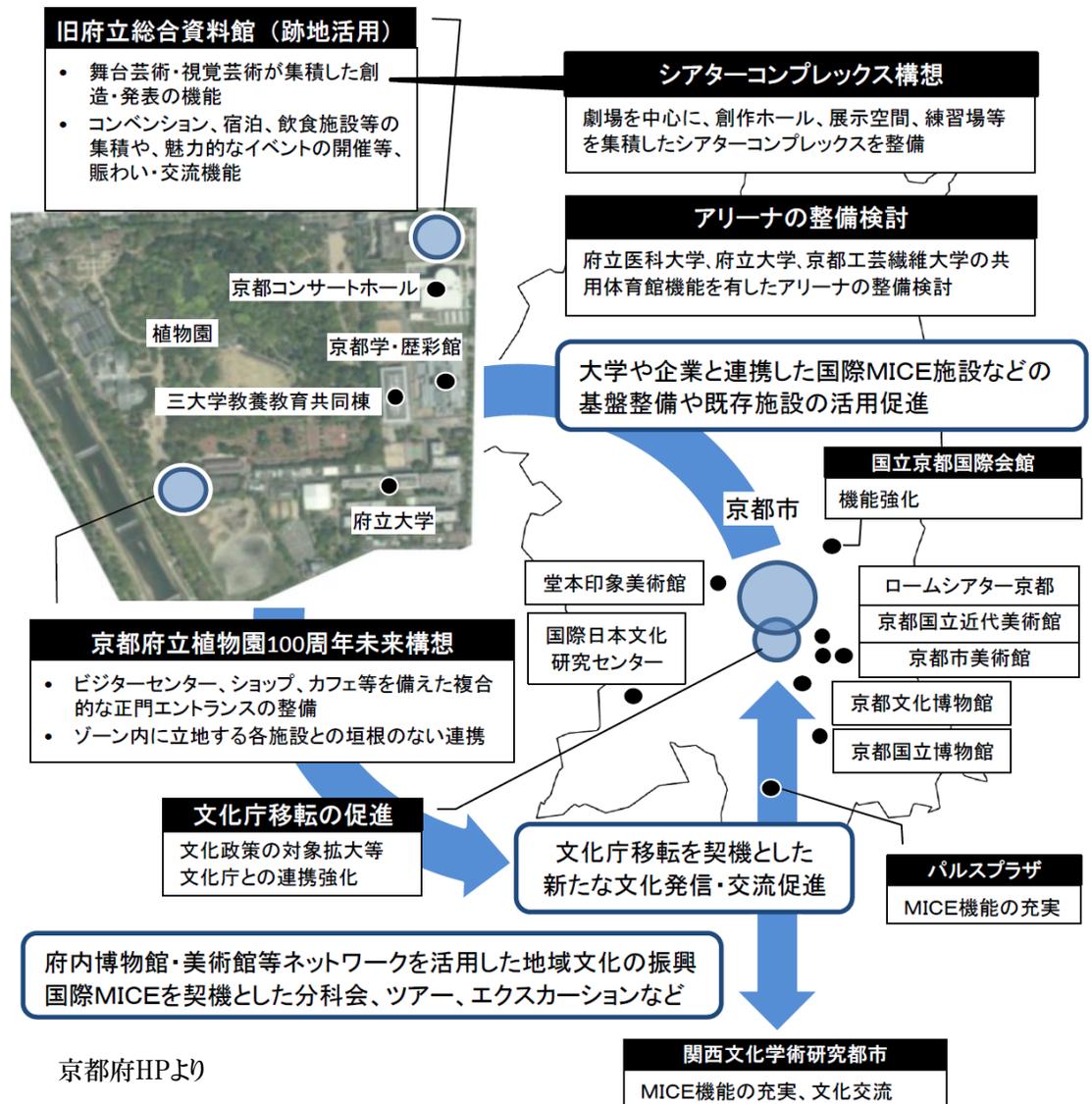
北山「文化と憩い」の交流構想

■京都が世界に誇る文化と憩いに包まれた交流エリアの形成

旧総合資料館跡地を活用した「シアターコンプレックス」や、開園100周年を迎える府立植物園など、芸術の発信や賑わい・交流機能を有する施設の整備に取り組むとともに、国際MICEを促進し、文化庁移転を契機として、国内外から人が集い、交流し、京都から新しい文化創造を進めます。

【主要な取組】

- 旧総合資料館跡地活用に伴う新たな文化芸術・交流発信拠点づくり
- アリーナの整備検討



京都府HPより

◆府立植物園

- ビジターセンター、カフェ・レストラン、ミュージアムショップ等、複合的な機能を備えた正門の整備による植物園の魅力向上と来園者サービスの向上
- 教育・学習・研究機能の充実と植物標本庫、展示室、図書コーナー等の整備
- 機能劣化した観覧温室の大規模改修又は建替えにより、機能を維持・確保
- 植物園と周辺施設がスムーズに繋がり、ハード・ソフト両面での垣根をなくした連携を可能とする施設整備

(3)留意事項

- 周辺環境との調和への配慮
- 民間等のアイデア、ノウハウ、技術、資本等を活用し、最適な整備・運営手法の選択と、業務内容ごとに行政・民間それぞれの特性を活かした最適な運営形態、包括的な運営について検討 など